

子宮癌に対する低侵襲手術

広島市立広島市民病院 産婦人科 野間 純

K-net 2012.9.20

子宮頸癌の治療法

手術療法

0期～ⅠA1期 : 円錐切除、単純子宮全摘

ⅠA2期～ⅡB期 : 広汎子宮全摘術

手術療法以外

ⅠB2～ⅣA期 : CCRT
(同時化学放射線療法)

ⅣB期 : 全身化学療法、緩和

子宮頸癌の手術療法

円錐切除

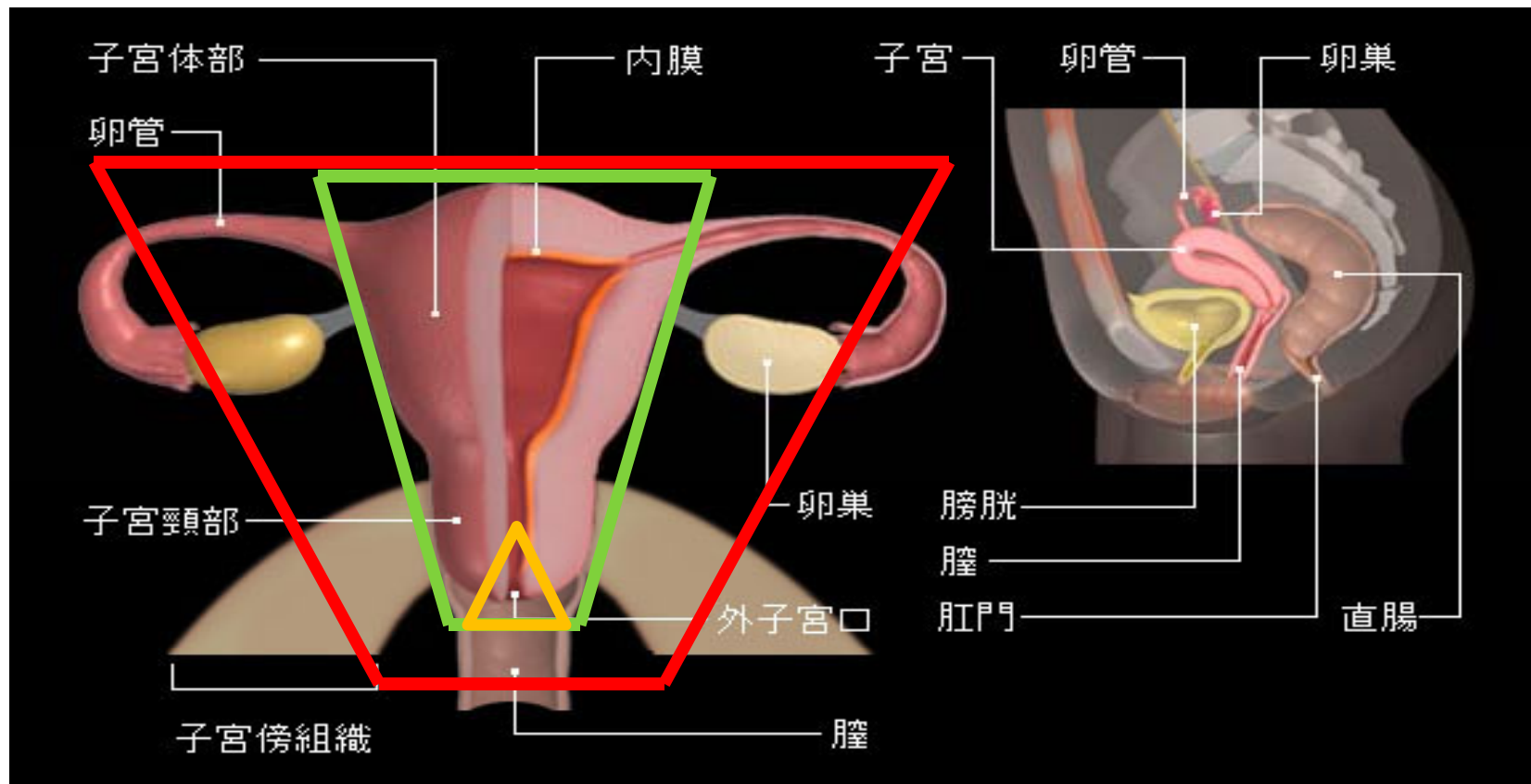
0期～ I A1期

単純子宮全摘

0期～ I A1期

広汎子宮全摘

I A2期～ II B期



治療の低侵襲化

標準的に行われている

HPVワクチンで頸癌を予防 **= 無侵襲**
早期の診断（上皮内癌、I A1期→円錐切除）

一般的になりつつある

広汎子宮全摘法の改良
排尿障害の発症予防
下肢リンパ浮腫予防

標準的には行われていない

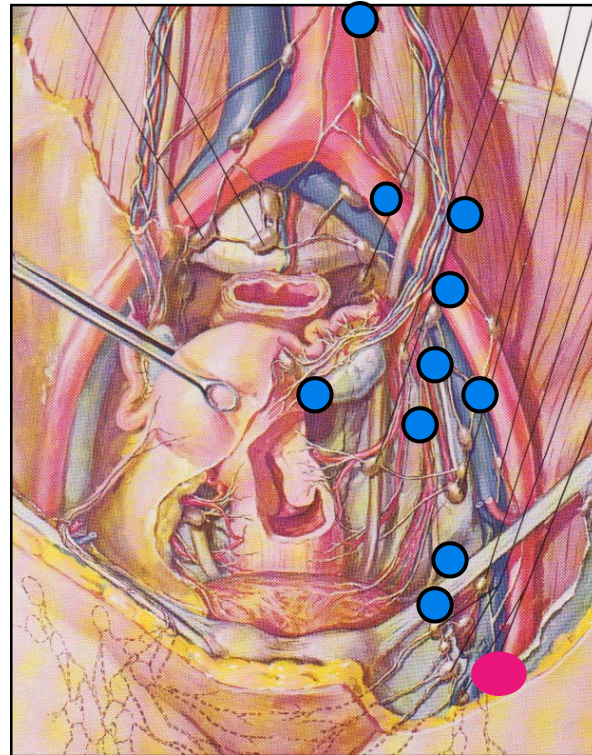
広汎性子宮頸部切除術（子宮の温存）
手術法の変更（開腹→腹腔鏡、ロボット手術）

広汎子宮全摘法・リンパ浮腫予防

従来法



当科



大腿上リンパ節
温存



リンパ側副路
の確保

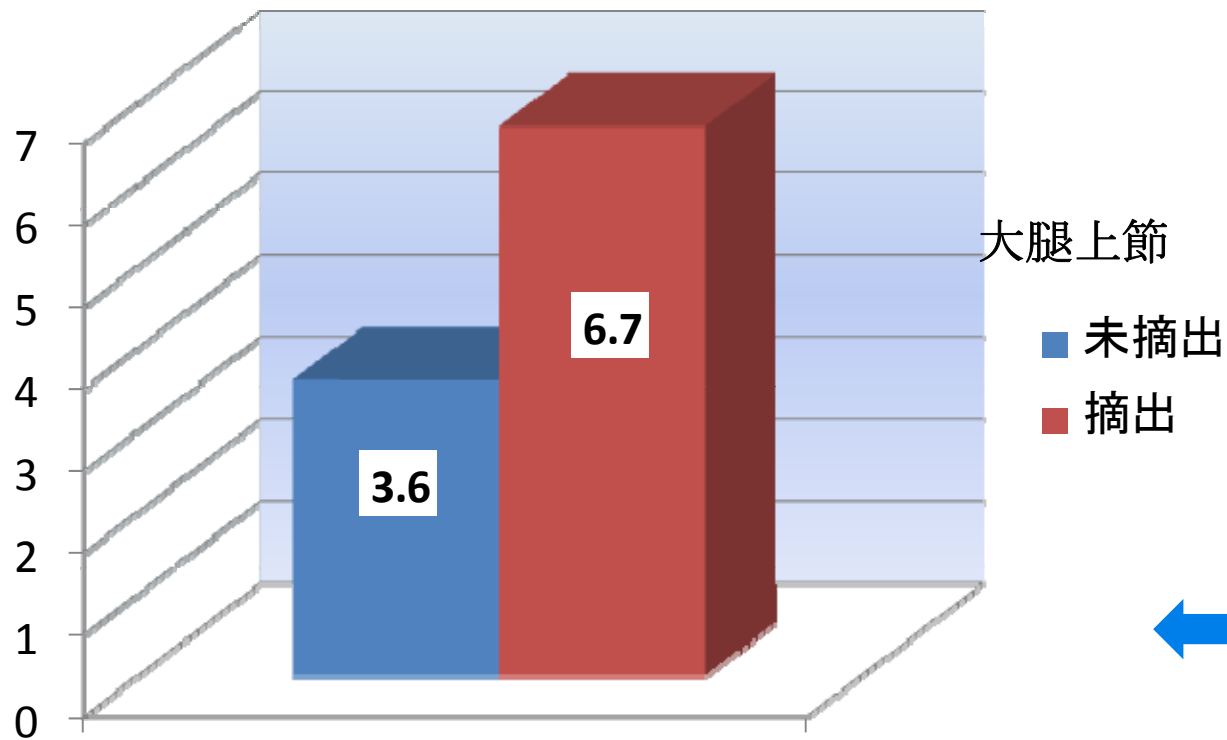


リンパ浮腫予防

当科のリンパ浮腫の予防

大腿上節を郭清しない

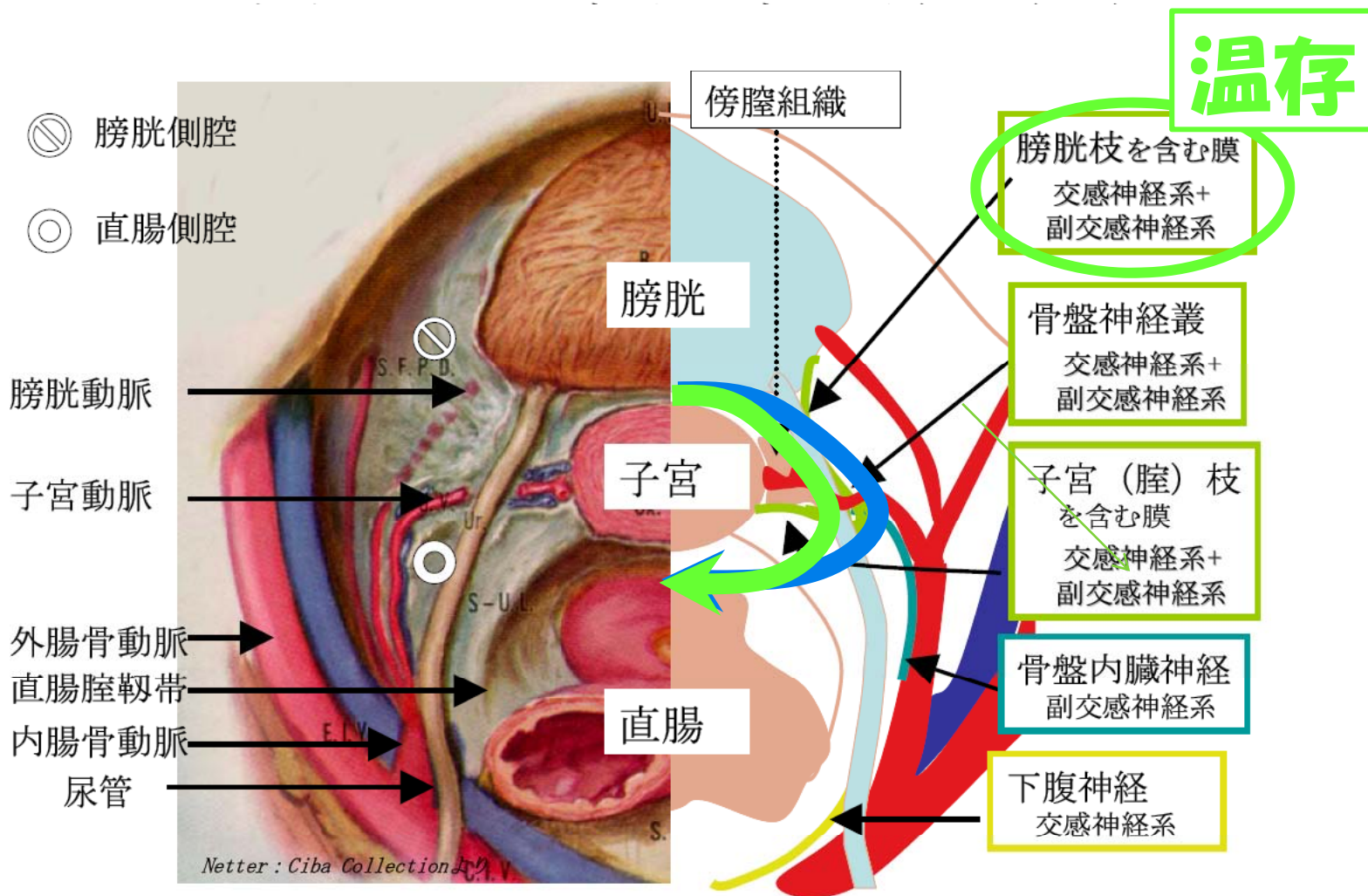
1997-2005までの広汎子宮全摘43例



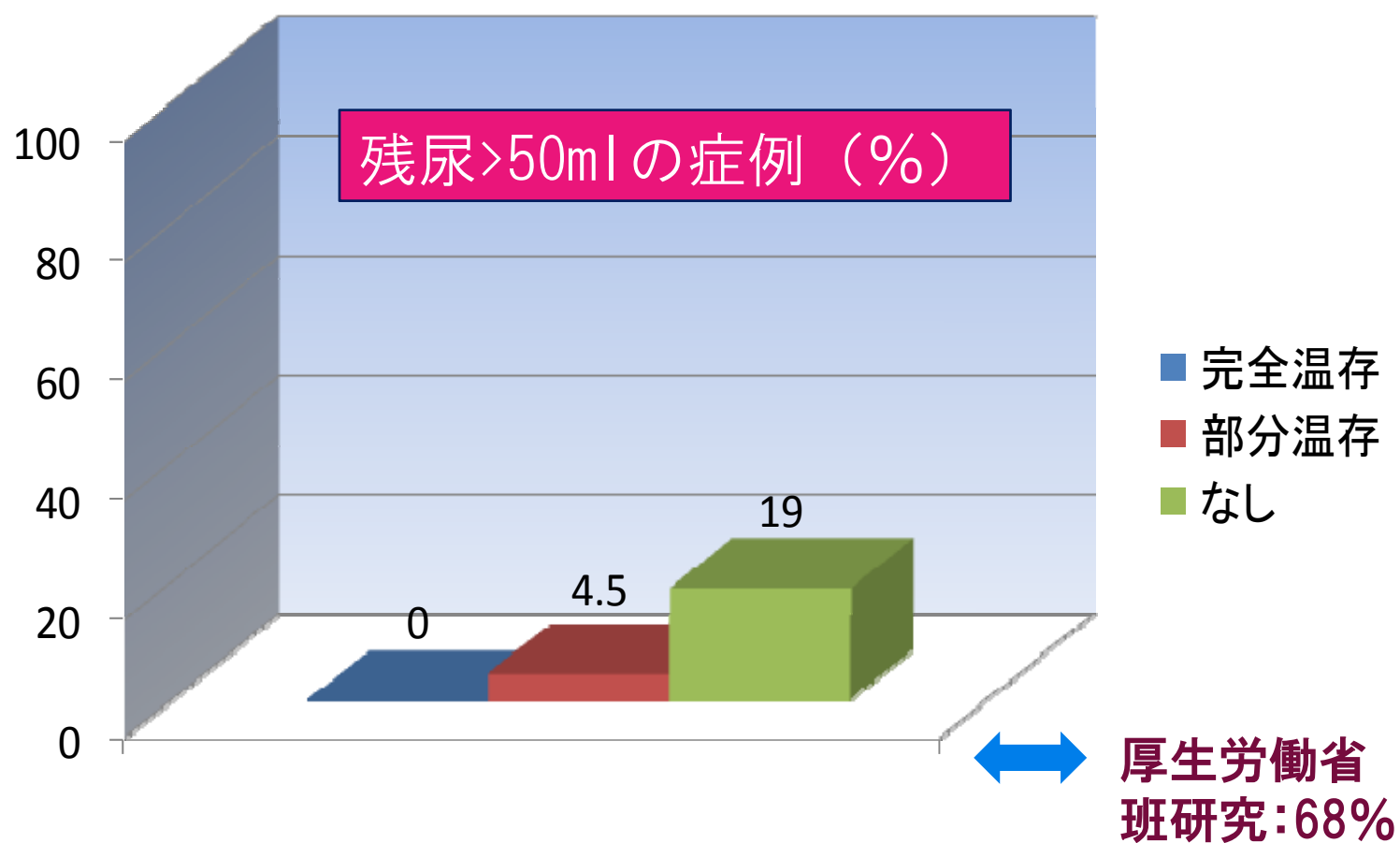
厚生労働省
班研究:
11.8%

➡ 多施設臨床試験予定（厚生労働科学研究費）

膀胱の支配神経と温存手術



排尿障害の発症率（当科）



治療の低侵襲化

標準的に行われている

HPVワクチンで頸癌を予防 **= 無侵襲**

早期の診断（上皮内癌、I A1期→円錐切除）

一般的になりつつある

広汎子宮全摘法の改良

神経温存→排尿障害の発症予防

上鼠径リンパ節の温存→下肢リンパ浮腫予防

標準的には行われていない

広汎性子宮頸部切除術（子宮の温存）

手術法の変更（開腹→腹腔鏡、ロボット手術）

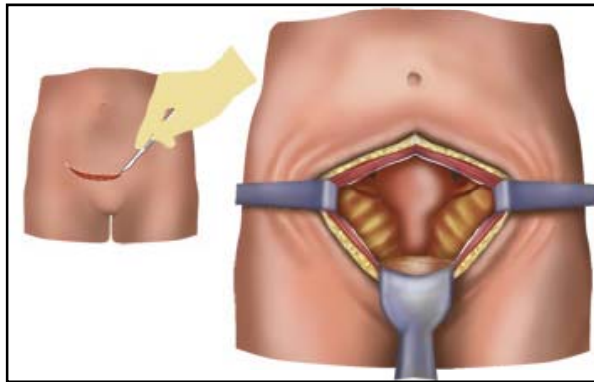
ロボット手術(Da Vinci)



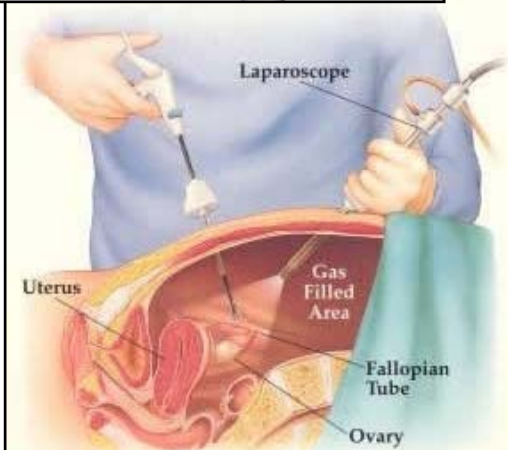
ロボット手術・広汎子宮全摘



開腹、腹腔鏡手術、ロボット手術

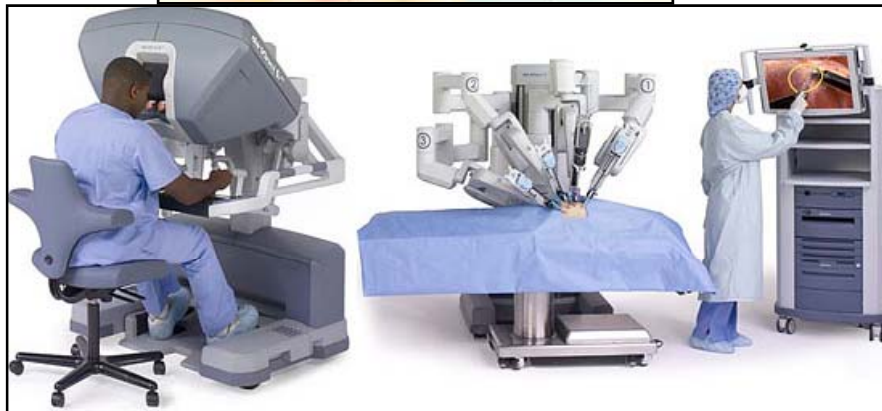


3D(肉眼)
鉗子などが制限なく、操作できる
鉗子の数に制限がない
直接、手でさわれる
(触覚が使える)



2D表示(モニター)
鉗子は、ポートが支点となり動く
鉗子の数に制限がある
直接、手でさわれない(触覚が使えず)

習熟が必要



3D表示(モニター)
鉗子の関節
手ブレがない
縮尺機能(精細な処置)
鉗子を思い通りに動かせる

腹腔鏡を改良

開腹・腹腔鏡・ロボット (広汎子宮全摘) の比較

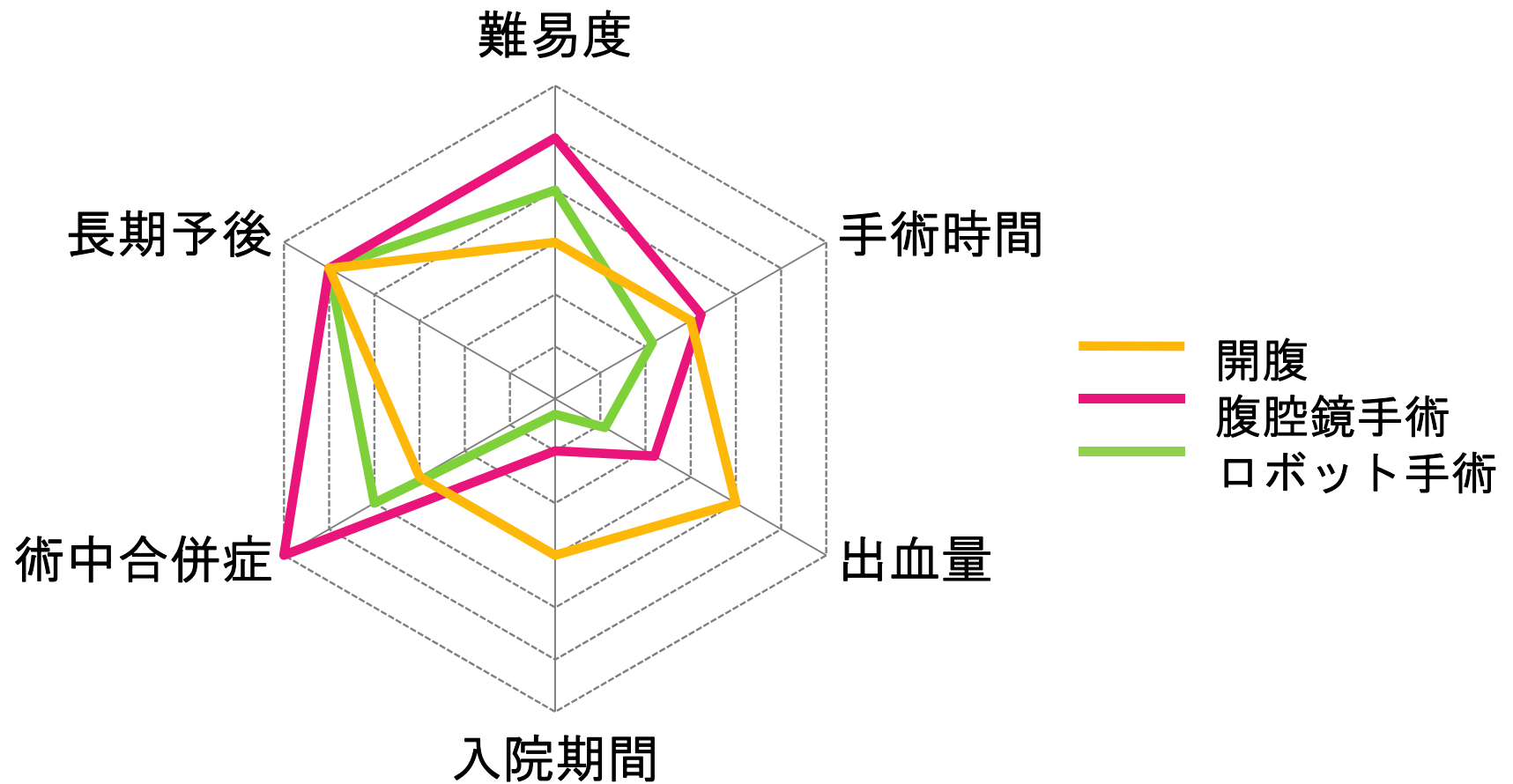
7文献をまとめると

	開腹	腹腔鏡	ロボット
手術時間(分)	247-318	323	215-219
出血量(ml)	200-621	209-254	50-174
術中合併症(%)	3.0	6.4	3.9
術後合併症(%)	17.2	19.2	26.7
入院期間(日)	14-20	2-13	1-6

生存率（腹腔鏡下子宮広汎全摘後と 開腹広汎子宮全摘の比較）

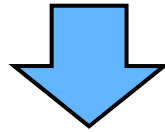
	倉敷成人病センター 腹腔鏡・広汎子宮全摘 213例（2000-2010）	国立癌センター中央病院 開腹・広汎子宮全摘 564例（1993-2002）
進行期	5年生存率(%)	5年生存率(%)
I	96.4	87.5
I B1		
I B2	91.3	
II	90	72.8

子宮広汎子宮全摘 開腹、腹腔鏡手術、ロボット手術



これからの子宮頸癌手術は....

- 婦人科悪性腫瘍の腹腔鏡、ロボット手術は、
現在、保険適応はない



- 当科でも、先進医療の認定をめざす



- 手術に関しては、低侵襲手術（腹腔鏡、
ロボット手術）も選択枝になる

子宮体癌の標準手術

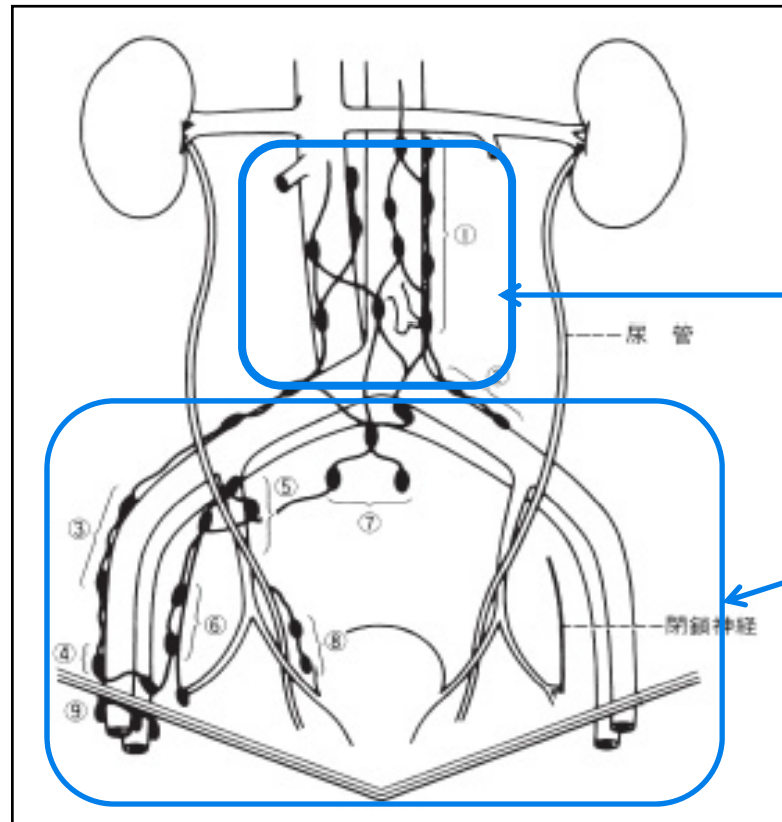
I A期、G1：単純子宮全摘+付属器切除

I B期以上：子宮全摘+付属器切除+大網切除+リンパ節郭清

進行期決定のため**傍大動脈リンパ節**

骨盤リンパ節生検、郭清が必要

所属リンパ節



傍大動脈リンパ節

骨盤リンパ節

傍大動脈リンパ節郭清の 後腹膜鏡下手術（当科）



当科で後腹膜鏡手術した体癌症例

フォローできている9例（11例中）

年齢	進行期	Grade	状態	観察期間(月)
62	I c	G2	再発・11年目	150
47	II b	G2	無病生存	30
51	III a	G2	無病生存	11
59	I b	G3	無病生存	156
55	I a	G1	無病生存	144
56	I b	G3	無病生存	121
46	I b	G2	無病生存	139
68	I c	G2	無病生存	115
57	II b	G2	無病生存	121

子宮体癌治療の現状と今後

子宮体癌に対する腹腔鏡下手術の保険適応はない

14施設（2012年8月現在）に先進医療として認定されている

腹腔鏡下子宮体がん根治手術の先進医療申請に関する依頼（日本産科婦人科学会）2012



子宮体癌の腹腔鏡下手術、ロボット手術の先進医療認定を目指す